

おもしろプロジェクト'07 中間報告書

プロジェクト名 CAP チャレンジ2007

代表者 松野雄太 (教4年)

構成員 奥谷里美 (教2年) 小野真由美 (教4年) 柿野香織 (教1年)
喜岡大哉 (教1年) 坂本奈美子 (教1年) 鷺明日美 (教4年) 福田由佳 (経4年)
森沙織 (理4年) 森広恵実 (教4年) 矢壁由理 (教4年)

(1) プロジェクトの目的

このプロジェクトの目的は、三つほどあります。

一つは、山口市内で CAP 西京という市民活動グループにより実施されている CAP ワークショッププログラムへ参加することです。わたしたち学生が参加することで、県内で実施されている CAP の活動をより充実させようと考えています。

もう一つは、CAP プログラムにおけるプログラムの進行役であるファシリテーター、ロールプレイヤーとしてのスキルを身に付けることです。県内で実施されている CAP のプログラムに参加するだけでなく、主体的に実施することができるよう、スキルを身に付けたいと考えています。

そして、もう一つ、子どもをめぐる諸問題についての研究を深め、意見交換を行うことです。児童相談所職員、臨床心理士、県内 CAP 関係者など児童福祉・教育関係者と交流し、それを通して CAP ワークショッププログラム、子どもをめぐる諸問題について考えていくことです。

(2) プロジェクトの内容

○CAP の概要

CAP とは Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略称で、子どもがいじめ・虐待・痴漢・誘拐といった様々な暴力から自分を守る力を育む教育プログラムです。従来の「～してはいけませんよ」式の危機防止教育とは異なり、何よりもまず子どもの中に人間としての権利意識を育てるプログラムです。CAP では、子どもたちに、安心、自信、自由の3つの権利を教えます。この大切な3つの権利が奪われそうになった時、つまり暴力にさらされた時、子どもたちができること—いやという (NO)、逃げる (GO)、相談する (TELL) などを簡単な劇を用いながら教えます (子どもワークショップ)。そして、子どもが自分で自分を守るという主体性を育てます。また、子どもだけでなく大人を対象としたおとなのワークショップというものもあります。そこでは、大人の権利意識を高め、暴力防止の雰囲気を作り出していきます。子どもの安全に対する意識が高まっている今日において、CAP は非常に有効なプログラムです。わたしたちは、山口の地域に CAP を根付かせようと活動しています。

○県内 CAP 活動の見学・参加

県内で実施される CAP の活動にロールプレイヤーとして参加します。学校で子どものワークを開くためには教職員向けのワークと保護者向けの大人のセミナーが必要になります。CAP をぜひわが校にもでも、という声をよくいただきます。また、地域の公民館において人権学習講座に参加することもあります。地域の方々と直接触れ合うことで子どもを守ろうという熱意や意識の高さに気づくことができました。地域全体で協力していくためには共通理解が必要だということを身をもって体験しました。児童向けのワークもありますが、子どものワークにはスペシャリスト養成講座を受けて資格がないと参加できないので、資格がないものは後ろで見学して大人のセミナーだけ

ロールプレイヤーとして参加します。大人のワークショップの主な内容は下記の通りです。わたしたちが実際にロールプレイをするのは5の「子どもワークショップの紹介」です。

○おとなワークショップの内容

1. CAP とは何か

2. CAP の歴史

3. CAP のアプローチ

子どもはなぜ暴力を受けやすいか

- ① 子どもは社会的な力を持たされていない
- ② 子どもは暴力についての正しい知識を与えられていない
- ③ 子どもは孤立させられている

4. CAP プログラムの三つの柱

- ① 子どもの権利—安心・自信・自由
- ② エンパワメント—子どもの問題解決力への信頼と働きかけ
- ③ コミュニティ—家庭・学校・地域をつなぐ

5. 子どもワークショップの紹介

6. 虐待の基礎知識

7. おとなができること

信頼できるおとなとして子どもに出会う

子どもの話をどう聴くか

家庭や学校でできるフォローアップの方法

地域の社会資源や相談機関の情報

(CAP への招待より)

○CAP スペシャリスト養成講座

CAP プログラムの質の維持という点から、CAP プログラムは、CAP スペシャリスト養成講座の基礎編と実践編を受講したものでなければ実施できません。わたしたちは、主体的に CAP プログラムを実施していくため、また、CAP の理念についての考え方を深めることも兼ねて、CAP スペシャリスト養成講座に参加します。

○定例会

わたしたちは毎週水曜 4 コマに定例会を開いています。主な内容としては、学習会等イベントの企画、県内 CAP の活動の見学・参加の日程・メンバー調整、資金運用経過等活動報告、メンバー募集ポスター作成、CAP 西京の宮原さんの指導の下行うロールプレイの練習、子どもをめぐる諸問題の意見交換などです。ワークショップで権利の説明に使う「安心・自信・自由」のパネルも作り、実際に使用してもらいました。

○学習会の実施

子どもをめぐる諸問題について研究を深め、意見交換を行います。児童相談所職員や臨床心理士、県内 CAP 関係者を講師として招き学習会を開きます。対象は CAP 関係者だけでなく、山口大学の学生や地域の方々など、子どもをめぐる諸問題について関心のある方すべてにポスターなどで宣伝し行います。

(3) 現在までの活動状況

昨年からの活動に参加しているものがほぼ 4 年生ということで、まず新メンバーの募集を行いました。茶話会を開

き、CAP の内容についての簡単な説明、模擬ワークを通してワークショップの流れ、CAP が伝えたいこと等を知ってもらいました。新メンバーが 5 人集まり、前期は CAP についての深い理解、ワークショップの流れ、ロールプレイングの練習を中心に行っていくことにしました。定例会では、ワークショップのシナリオの読み合わせを行い、意見交換を行いました。

CAP スペシャリスト養成講座（基礎編）には計 3 名が参加しました。基礎編では、防止教育の思想と理論や、子どもを取り巻く暴力（特にいじめや DV など）の基礎知識、CAP の意義などを講義形式で学びました。講義のあいまに何回も参加者や講師の先生と意見交換をすることで、色んな立場のひとの意見を聞くことができたり、自分の考えを深めることができたりと、本当に意義のある 3 日間だったと思います。

<スペシャリスト養成講座の感想>

「三日間の養成講座で想像以上のものを得ました。期待以上です！CAP の魅力は、子どもの前でワークショップを行うだけでなく、その後のトークタイムがあることだと思います。子どもの話を聞くということが、ただ聞き出すだけでなく、相手を認め心を開かせるという難しいことを知りました。実践編を受けてスペシャリストを目指したいなと思いました。有意義な三日間でした。」

「大分で行われた、三日間の講座に参加し、自分の世界が広がっていくのを感じました。わたしは自分自身暴力を受けた経験があり、CAP の考え方や講師の方々のお話を聞く中で、これ以上つらい経験をする子どもが増えないように傷ついた子どもを救えるようになりたいと思う気持ちが強くなりました。」

また、7 月 21 日に山口県セミナーパークで行われた教職員ワークショップに 3 名参加してきました。教職員ワークショップでは虐待や通告に関して必要な知識、子どもの人権を尊重すること、虐待が疑われる子どもの話の聞き方などを研修しました。

<感想>

スペシャリスト養成講座でも教職員ワークショップでも、プログラム全体が「あなたは大切な人だよ。」というメッセージがこめられていて、講義を受けているわたし達も暖かい気持ちになれました。この研修を通して子どもを大切にすること、子どもの力を信じてその力を引き出すこと、わたし達も自分を大切にすることを学ぶことができました。とてもあたたかく、充実した時間をすごすことができ、満足しています。この研修をこれからの活動に活かしていこうと思いました。

そして、9 月 20 日に大内公民館において、山口市人権学習講座「いじめを考える—CAP プログラム」にロールプレイヤーとして参加しました。本講座では地域の方々を対象に CAP プログラムについての説明と CAP プログラムの理念をもとに人権、いじめについて地域の方々とともに考える活動をしました。地域の方々も積極的に発言等してくださりととても有意義な時間となりました。

プロジェクト進捗状況・・・60%

・実施済み事項

- (1) 県内 CAP 活動への参加
 - ・教職員ワークショップへの参加
 - ・山口市民講座への参加
- (2) CAP スペシャリスト養成講座（基礎編）
- (3) 定例会
 - ・茶話会、模擬ワーク
 - ・定例会でのシナリオ読み合わせ、ロールプレイの練習

・これからの予定

- (1) 学習会の実施
- (2) 県内 CAP の活動への参加～こどもワークショップ、おとなワークショップ～
- (3) CAP スペシャリスト養成講座（実践編）

予算使用状況

12,000 円

(予算 20,000 円)